

# 香りに対する女子大学生の関心度 —被服関心度との相関において—

学芸学部 被服学科 小林 政司

**要旨：**本研究では、現在の女子大学生はどのように香りや被服に関心があるのか、また香りに対する関心が被服に対する関心が高いほど高くなるなど、両者の関心度の間に何らかの相関があるのではないかと予想し、香りと被服の関心度を既存の被服関心度質問表とこれを基に独自に作成した香り関心度質問表を用いて調査することで検証した。

その結果、香りと被服の総合的な関心度については正の相関が認められ、香りに対する関心は被服に対する関心が高いほど高くなるといえる。また、香水などの香りについての対人的（他者評価）要素に関して、多くの女子大学生が被服と同様の関心ないしは共通の認識を有している一方で、個人的（自己評価）要素については各々が被服と異なる関心度を有することが予想される。

**キーワード：**香り、被服、関心度、女子大学生、質問票

## 1. はじめに

香りの感覚である嗅覚は、化学物質を受容器で受け取ることで生じ、ヒトにおいては鼻腔の奥にある嗅細胞により電気信号に変換して、脳でそれを認識する<sup>[1]</sup>。いわゆる五感のひとつにも数えられる。また、関連資格としては、1996年の悪臭防止法の改正に伴い誕生した環境省所管の国家資格である臭気判定士<sup>[2]</sup>が知られる。

人間の嗅覚は、もともと危険予知、食料検知、異性探知などの役割で発達したものと考えられるが、現在では香水やハーブの香りを楽しむなど感性的情報の受容機能としての様相が強まり、ファッションとの関連でも注目されている<sup>[3]</sup>。衣料用の洗剤や柔軟剤などの製品においても、特に2010年頃から、香りの種類や持続性を強調して訴求を狙うものが散見されるなど<sup>[4]</sup>、被服分野での感性特性のひとつとして香りが重要視されてきている。

本研究では、現在の女子大学生はどのように香りや被服に関心があるのか、また香りに対する関心が被服に対する関心が高いほど高くなるなど、両者の関心度の間に何らかの相関があるのではないかと予想し、香りと被服の関心度を既存の被服関心度質問表とこれを基に独自に作成した香り関心度質問表を用いて調査することで検証した。

## 2. 方法

神山<sup>[5-7]</sup>の被服関心度質問表（8関心次元、48項目、表1）とその各質問項目の「衣服」、「衣料品」などの用語を「香り」、「香水」などに置き換えて独自に作成した香りの関心度質問表（48項目、表2）を用いた調査（配票調査法）により、大阪樟蔭女子大学の学生27人（18～22歳）から回答を得た。

質問紙の作成においては、あらかじめ設定された関心次元を伏せるとともに、順序効果排除のため表1および表2に示すNo.の順に各質問を配置した。なお、各質問の選択肢は「まったくそのとおり」、「それに近い」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「まったくあてはまらない」の5段階とし、集計時にはそれぞれ5点～1点の得点を与えることとした。

また、香りの関心度も被服の関心次元<sup>[5]</sup>に倣いそれぞれ8つの関心次元に分類した。関心次元はⅠ；「個性を高める」、Ⅱ；「心理的安定感を高める」、Ⅲ；「似合いの良さを追求する」、Ⅳ；「同調を図る」、Ⅴ；「快適さを求める」、Ⅵ；「理論付けを図る」、Ⅶ；「慎みを求める」、Ⅷ；「対人的外観（印象）を整える」である。

## 3. 結果および考察

### 3.1. 香りの関心度と被服の関心度の相関

香りと被服の関心度についてそれぞれ48項目の総

表 1 関心次元ごとの被服関心度についての質問項目

No	関心次元と質問項目
I 「個性を高める」	
1	新しいファッションが市場に出る時、私はそれらをまっさきに採用しようとする。
16	私は、洋服ダンスに最新スタイルの服をそろえるように心がけている。
17	私は、新鮮なファッションを求めて近くの町（繁華街）にでかける。
32	私は、普通の人が着ていない衣服を買うように心がけている。
33	人とは違った衣服であるという気分にはさせてくれない理由から、私はある種の衣服を着用しない事がある。
48	たとえ人目を引くとしても、私は他の人とは違う衣服を着用する。
II 「心理的安定感を高める」	
2	ある種の衣服は私に一層の自信を感じさせてくれる。
15	私は別格の衣服を着る時には、愛想よく、また、開放的になる。
18	私は最上の（いっちょうら）の通勤着（通学服）を着ている場合とそうでない場合とでは、自分の気分やそのとる行動に違いを感じる。
31	私は自分の気分を高めるために衣服を買う。
34	私は、四六時中、同じ衣服を着ていると退屈する。
47	私は、最上の（いっちょうら）の通学服（通勤着）を着る時、強い自信を感じる。
III 「似合いの良さを追求する」	
3	私は友人と、お互いが着用している衣服の似合いのよさについて話し合う。
14	どのようにアクセサリを組み合わせれば、自分を魅力的にできるのかを知るため、私は店にならぶアクセサリ・コレクションを研究する。
19	服装に関する新しい情報を得るため、私は雑誌や新聞を読む。
30	いろいろな衣服とアクセサリについて、それらをどのように組み合わせた時、どのような効果が出るのかを研究してみることは興味深い。
35	たとえ友人の誰もが無関心であり、また、自分自身しいて着用したいと思わなくても、何が新しい流行の服なのかを知りたいと思う。
46	新しい衣服を買うとき、それを試着する前に似合いそうなアクセサリを探してみる。
IV 「同調を図る」	
4	私は、ある集まりに何を着ていくかについて、自分が決める前に一緒に行く友人と打ち合わせする。
13	私はたとえ似合いそうにないものであっても、多くの人が着用している衣服を着る。
20	私は、グループのなかで仲間意識をもつために、他の人と同じような服装をするよう心がけている。
29	特別の祝典などに対して、もし自分のもってる服が、友人が着るだろうと思われるものと違ったタイプなら、友人に合わせ新しい衣服を購入する。
36	私は、たとえ自分に似合いそうにないものであっても、学校(職場)の仲間たちの間で流行している衣服を着る。
45	新しい衣料品を購入する場合、私は、友人が着用しているものと似たものを買うように心がけている。
V 「快適さを求める」	
5	衣服の肌触りは、私にとって重要である。
12	特定の布の風合い—例えば、ソフトな、毛羽立った、こしの強い、なめらかな—について、特に自分が愛好し、また買いたいと思うものがある。
21	私は、たとえ気にいった衣服であっても、快適でないならば着用しない。
28	私は、上腕（二の腕）を圧迫するような衣服は着用しないようにしている。
37	私は、衣服が快適でないならば、いらだつ。
44	私は、生地（風合い）に非常に敏感である。
VI 「理論付けを図る」	
6	私は、なぜ人々がおもしろい衣服を着るのかを知りたい。
11	私は、快適な衣服とそうでない衣服があるのはどうしてであろうかと思う。
22	私は、なぜ皆とは違った衣服を着用する人がいるのか興味深く思う。
27	私は、衣服について、どのようにすれば最大限、時間、エネルギーまた金銭を節約できるのかを知りたい。
38	誰かがあまり似つかわしくない服装で学校（職場）にやってくる時、私はなぜその人がそのような服装をしてきたのかを知りたいと思う。
43	私は、なぜある種の衣服が他より一層気分をよくしてくれるのか不思議に思う。

---

 VII 「慎みを求める」
 

---

- 7 はっきりしたシルエットをもたない薄物の透けたドレスやブラウスは、体をあまりにあらわしすぎると思う。  
 10 私は、ジッパーをしめ忘れているような人を見た時、不快感を感じる。  
 23 私は、胸もとの切り込みの深いドレスを着ている人を見ると、恥ずかしさを感じる。  
 26 私は、あまりにも体にぴったりとした衣服を着ている人を見るとなんとなく恥ずかしい。  
 39 私は、あまりに体をあらわにしすぎような衣服を着ている人とは近づきになりたくない。  
 42 私は、なぜ不謹慎な衣服を着る人がいるのか疑問に思う。
- 

## VIII 「対人的外観（印象）を整える」

- 8 私は、シーズンのすぎた衣服がただしく洗濯・保管されているかどうか気にくばる。  
 9 私は、シャツのすそがたえず出てうまくおさまらないような時、わずらわしさを感じる。  
 24 私は、衣服を選ぶ場合、服のシルエットから、それがどのような素材でできているのかを考える。  
 25 私は、雨もようの日には、衣服が濡れるのを防ぐために、レインコートを着るか、傘をもつかする。  
 40 私は、たえず自分の靴をきれいにしている。  
 41 私は、衣服とアクセサリーとがうまく調和するように注意している。
- 

No. 1～48 は質問紙における順序

表2 関心次元ごとの香り関心度についての質問項目

No	関心次元と質問項目
I 「個性を高める」	
48	新しい香水が市場に出る時、私はそれを真っ先に採用しようとする。
33	私は、最新の香水をそろえるように心がけている。
32	私は、新鮮な香水を求めて近くの町(繁華街)に出かける。
17	私は、普通の人がつけていない香水を買うように心がけている。
16	人とは違った香水であるという気分になさしてくれない理由から、私はある種の香水を使用しないことがある。
1	たとえ人目を引くとしても、私は他の人とは違う香水を使用する。
II 「心理的安定感を高める」	
47	ある種の匂いは、私に一層の自信を感じさせてくれる。
34	私は別格の香水をつける時には、愛想よく、また、開放的になる。
31	私は有名ブランドの香水をつけている場合とそうでない場合とでは、自分の気分や行動に違いを感じる。
18	私は自分の気分を高めるために香水を買う。
15	私は、四六時中、同じ香水をつけていると退屈する。
2	私は、有名ブランドの香水をつけている時、強い自信を感じる。
III 「似合いの良さを追求する」	
46	私は友人と、お互いが使っている香水の似合いのよさについて話し合う。
35	どのように香水と衣服を組み合わせれば、自分を魅力的にできるのかを知るため、私は店にならぶ香水を研究する。
30	香水に関する新しい情報を得るため、私は雑誌や新聞を読む。
19	いろいろな香水と衣服について、それらをどのように組み合わせた時、どのような効果が出るのかを研究してみることは興味深い。
14	たとえ友人の誰もが無関心であり、また、自分自身しいて使用したいと思わなくても、何が新しい流行の香水なのかを知りたいと思う。
3	新しい香水を買うとき、それを試す前に似合いそうな衣服を探してみる。
IV 「同調を図る」	
45	私は、ある集まりにどんな香水をつけていくかについて、自分が決める前に一緒に行く友人と打ち合わせする。
36	私は、たとえ似合いそうにないものであっても、多くの人がつけている香水を選ぶ。
29	私は、グループのなかで仲間意識をもつために、他の人と同じような香水をつけるよう心がけている。
20	特別の祝典などに対して、もし自分のもっている香水が、友人がつけるだろうと思われるものと違ったタイプなら、友人に合わせ新しい香水を購入する。
13	私は、たとえ自分に似合いそうにないものであっても、職場(学校)の仲間たちの間で流行している香水をつける。
4	新しい香水を購入する場合、私は友人が使用しているものと似たようなものを買うように心がけている。

---

V「快適さを求める」	
44	身につける香りは、私にとって重要である。
37	特定の香水(香り)について、特に自分が好ましい、また買いたいと思うものがある。
28	私は、たとえ気に入った香りであっても、快適でないならばつけない。
21	私は、鼻を刺激するような香水は使用しないようにしている。
12	私は、香りが快適でないならば、いらだつ。
5	私は、香りに非常に敏感である。
VI「理論付けを図る」	
43	私は、なぜ人々がおもしろい香りの香水をつけるのか知りたい。
38	私は、快適な香りとそうでない臭いがあるのはどうしてであろうかと思う。
27	私は、なぜ皆とは違った香水を使用する人がいるのか興味深く思う。
22	私は、香水について、どのようにすれば最大限、時間、エネルギーまた金銭を節約できるのかを知りたい。
11	誰かがあまり似つかわしくない香りで職場(学校)にやってくる時、私はなぜその人がそのような香りにしてきたのか知りたいと思う。
6	私は、なぜある種の香りが他より一層気分をよくしてくれるのか不思議に思う。
VII「慎みを求める」	
42	私は、香りのきつい香水は主張しすぎだと思う。
39	私は、不釣り合いな香水をつけている人を見た時、不快感を覚える。
26	私は、香水をつけ過ぎている人を見ると、恥ずかしさを覚える。
23	私は、あまりにもきつい香りの人を見るとなんとなく恥ずかしい。
10	私は、あまりにきつい香りの香水をつけている人とは近づきにはなりたくない。
7	私は、なぜ不謹慎な香水をつける人がいるのか疑問に思う。
VIII「対人的外観(印象)を整える」	
41	私は、シーズンのすぎた香水がただしく保管されているかどうか気にくばる。
40	私は、普段使えないような香りの香水にわずらわしさを感じる。
25	私は、香水を選ぶ場合、香りから、それがどのような材料でできているのかを考える。
24	私は、香水を携帯する時、ボトルに傷または汚れが付かないように気をつける。
9	私は、たえず自分の身なりをきれいにしている。
8	私は、香水と衣服とがうまく調和するように注意している。

No. 1～48 は質問紙における順序

表3 香りと被服の関心度調査集計結果(相関係数)

	香り		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
	平均	$\sigma$	10.9	13.3	11.9	8.3	21.0	15.5	21.9	16.0
被服	平均	$\sigma$	3.8	4.0	4.1	2.6	3.8	6.1	6.0	3.6
I	17.9	3.9	0.294	0.172	0.330	0.181	0.359	0.320	0.149	0.218
II	21.3	4.8	0.223	0.282	0.416*	0.234	0.179	0.392*	0.500**	0.422*
III	19.6	4.6	0.276	0.312	0.559**	0.392*	0.227	0.515**	0.112	0.553**
IV	10.7	3.7	0.289	0.366	0.584**	0.558**	0.044	0.390*	-0.003	0.415*
V	19.6	4.4	0.110	0.236	0.189	0.334	0.137	0.039	0.594**	0.243
VI	19.7	6.1	0.125	0.287	0.445*	0.378	0.179	0.752**	0.436*	0.560**
VII	16.6	5.5	-0.018	0.073	0.143	0.216	-0.291	0.265	0.549**	0.278
VIII	20.4	4.4	0.326	0.244	0.389*	0.395*	0.129	0.443*	0.307	0.423*

(危険率  $P$ : \*\*: < 1%, \*: < 5%)

合計得点をもって香り関心得点、被服関心得点とし、被験者ごとにプロットすることで、両者の相関を調査したところ、図1に示すように正の相関(危険率  $P=7.82 \times 10^{-6}$ )が得られた。つまり、被服に対する関心が高い者ほど香りに対する関心度も高くなる傾向が認

められる。また、今回用いた香りの関心度質問表は、被服関心度質問表の各質問項目の「衣服」、「衣料品」などの用語を「香り」、「香水」などに置き換えて独自に作成したものであるが、香りの関心度の指標として妥当なものであると考えることができる。

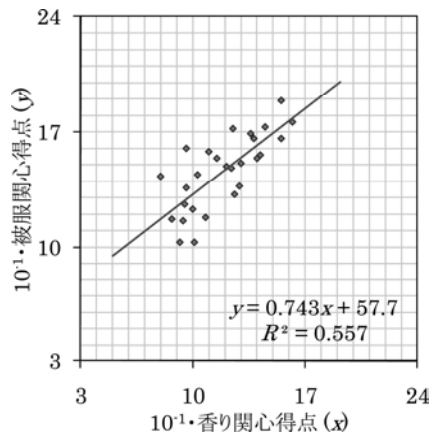


図1 香りと被服における関心得点

なお、被服と香りの両者に対する関心の度合いが同程度であれば、これらの関心度は比例関係となり、図1の近似線が原点を通過する直線となるはずであるが、今回の結果では被服関心得点の切片が57.7と大きいことから、香りに対する関心よりも被服に対する関心の方が相対的に強いことが予想される。

### 3.2. 関心次元ごとにみた香りと被服の関心度

香りの関心度と被服の関心度の調査結果を8つの関心次元に分類し、各次元ごとに集計（8つの次元ごとに6項目の得点を単純合計する。）して、平均値、標準偏差（ $\sigma$ ）および相関係数を求め、表3にまとめた。

この表で香りと被服について同じ関心次元を見ていくとⅢ；「似合いの良さを追求する」、Ⅳ；「同調を図る」、Ⅵ「理論付けを図る」、Ⅶ；「慎みを求める」、Ⅷ；「対人的外観（印象）を整える」の相関が高く（例えば図2）、Ⅰ；「個性を高める」、Ⅱ；「心理的安定感を高める」、Ⅴ；「快適さを求める」が低い（例えば図3）結果となった。相関の高い関心次元Ⅲ；「似合いの良さを追求する」、Ⅳ；「同調を図る」、Ⅵ「理論付けを図る」、Ⅶ；「慎みを求める」、Ⅷ；「対人的外観（印象）を整える」は、その内容を吟味すると、総じて似合いや同調など対人的（他者評価）要素の強いものである。他方、相関の低いⅠ；「個性を高める」、Ⅱ；「心理的安定感を高める」、Ⅴ；「快適さを求める」といった次元は、個性や嗜好など個人的（自己評価）要素が強い傾向があると考えられる。

また表3において香りのⅧ；「対人的外観（印象）を整える」は、被服のⅢ；「似合いの良さ」、Ⅳ；「同調を図る」、Ⅵ；「理論付けを図る」、Ⅷ；「対人的外観を整える」と相関が高く、逆に被服のⅧ；「対人的外

観を整える」についても同様の傾向であった。ここでも個人的（自己評価）要素よりも対人的（他者評価）要素の大きな関心次元での相関が高い結果となった。

神山は、被服の関心度についてⅠ；「個性を高める」、Ⅳ；「同調を図る」、Ⅷ；「対人的外観（印象）を整える」の3つの次元は他者に印象を与える手段としての被服の対人影響的側面と関係するとしている<sup>[5]</sup>が、香りの関心度との相関を見ると、他者に印象を与えるだけでなく、その客観的な評価にまで関心が及ぶことが示唆された。また、Ⅴ；「快適さを求める」については被服の機能的・実用的側面と関係しているとされる<sup>[1]</sup>が、香りについての機能や実用的側面に対する評価が被服とは大きく異なるため、図3のように相関が低い結果になったものと考えられる。ここでは、香りが嗅覚に対する刺激であるのに対して、被服が視覚や触覚を主体とする刺激であるという点、すなわち刺激の対象の相違も相関が低くなる大きな要因であると考えられる。

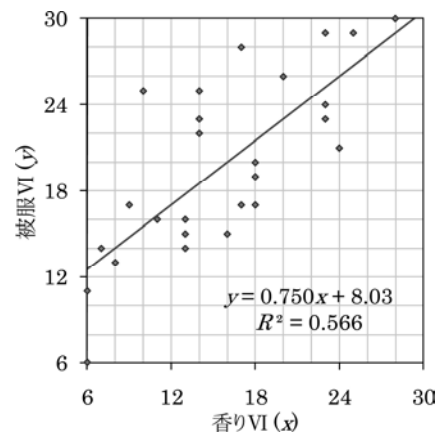


図2 香りと被服における関心度

Ⅵ「理論付けを図る」について

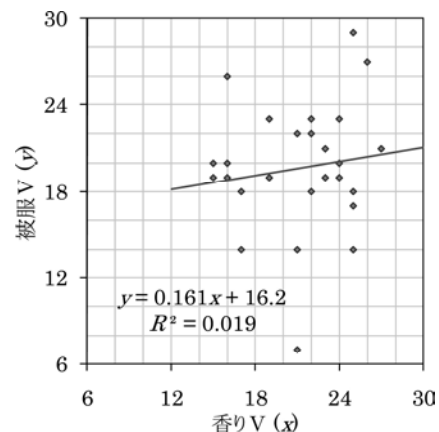


図3 香りと被服における関心度

Ⅴ「快適さを求める」について

#### 4. 結論

香りと被服の総合的な関心度については正の相関が認められ、香りに対する関心は被服に対する関心が高いほど高くなるといえる。また、香水などの香りについての対人的（他者評価）要素に関して、多くの女子大学生が被服と同様の関心ないしは共通の認識を有している一方で、個人的（自己評価）要素については各々が被服と異なる関心度を有することが予想される。

ファッション（特に若年層の被服）については Smucker と Creekmore の研究により仲間集団で人気の高い服装に同調して自分も同じ被服を着用している人程、所属集団の他の構成員から仲間として受け入れられるという事<sup>[8,9]</sup>や、その後の Creekmore の研究<sup>[10]</sup>を引用し、神山によって、魅力的と評定される人は魅力的な被服を着用し、仲間集団の服装スタイルへの意識や同調の度合いが高く、そして仲間から受容される度合いが高いという事<sup>[11]</sup>などが明かにされている。今回の調査結果からは、香りにおいても上述の被服の傾向と同様の傾向が認められるのではないかと考えられる。また、Ⅲ；「似合いの良さを追求する」意識が高いあまり、Ⅴ；「快適さを求める」意識が低下しているといった現象も予想され、香り、被服ともに集団意識をもった似合いの良さを求めるあまり、個性や快適さを求める意識がある程度犠牲となって失われているということが予想される。

なお、年齢の属性が個人の被服関心に大きな影響を持つことも明らかにされており<sup>[6]</sup>、女子大学生という特定の集団を調査対象としている今回の調査結果の適用には注意が必要である。

#### 謝辞・弔辞

本研究の協力者、又野翠理氏（大阪樟蔭女子大学）は故村澤博人教授の研究室（化粧文化研究室）所属の学生であったが、2009年06月26日、先生の急逝により同教授最後の指導学生の一人となった。その後、著者の研究室に配属となり、本研究の遂行に協力した。ここに記して両氏に謝意を表すとともに、村澤教授のご冥福をお祈りする。

#### 参考文献

- 1) 鈴木教世、「においを感じるしくみ」、バイオイングストリー（シーエムシー出版）22[12]、5-14（2005）
- 2) 公益社団法人日本におい・かおり環境協会、「臭気判定士パンフレット」（2011）
- 3) Gilbert, A., 'What the Nose Knows: The Science of Scent in Everyday Life', Crown (2008) ; 勅使河原まゆみ訳、「匂いの人類学 鼻は知っている」、ランダムハウスジャパン（2009）
- 4) 齋藤麻優美、藤井日和、宮原岳彦、江川直行、高岡弘光、「柔軟仕上げ剤の各種香りが女性の印象に与える影響」、第13回日本感性工学会大会、東京（2011）
- 5) 神山進、「被服関心の概念とその測定—ギュレルの研究の追試—」、繊維製品消費科学、24[1]、27-33（1983）
- 6) 神山進、「被服関心と職務環境」、繊維製品消費科学、24[2]、69-78（1983）
- 7) 菅原健介、「心理測定尺度集Ⅰ」、サイエンス社、284-290（2001）
- 8) Creekmore, A. M., 'Methods of Measuring Clothing Variables, Michigan Agricultural Experiment', Station Project, Michigan State University, East Lansing, No. 783, 96-101（1971）
- 9) Smucker, B., and Creekmore, A. M., "Adolescents' clothing conformity, awareness, and peer acceptance", *Home Econ. Res. J.*, 1[2], 92-97（1972）
- 10) Creekmore, A.M., Clothing and personal attractiveness of adolescents related to conformity, to clothing mode, peer acceptance, and leadership potential, *Home Econ. Res. J.*, 8[3], 203-215. (1980)
- 11) 神山進、「被服心理学」、光生館（1985）

## **Perfume Interest Level of Female Students :Related to Clothing Interest Level**

Faculty of Liberal Arts, Department of Clothing Sciences  
Masashi KOBAYASHI

### **Abstract**

The aim of this study is to probe the hypothesis; there is high correlation between the interest level on perfume (such as fragrance) and that on fashion of clothing. The research was conducted by using the questionnaire on clothing and perfume for investigation of those interest levels.

The results obtained are as follows:

1; Subjects that have totally higher interest level on perfume also have that on fashion of clothing, and it revealed that the interest levels on perfume and clothing have correlation.

2; From the view of different dimensions, many of subjects have same interest level on perfume and clothing in the dimensions dealing with objective evaluation such as 'enhancement of awareness'. On the other hand, they personally have different interest level in the dimensions dealing with self-evaluation such as 'pursuing of comfort'.

Keywords: perfume, clothing, interest level, female students, questionnaire method